

芹根水せりねのは堀川通生きすや酢屋橋すやの南にあり。〔近年書家う鳥石せき葛辰かつしん、清水に井筒いづつを入れて、傍には芹根水せりねのの銘みづから八分字に書して石面に彫刻す、又公卿の詩歌を集む。其序文に曰

源融公みなものゆうこう、むかし此辺青甸あおのたりし風景を愛し、既に今日の竹林にある所において、奥州千賀の塩竈の景をうつし、

汐汲しほくみのありさまを弄れしよしにて、其時第宅の用水いづみたりしにや。かたの如く清水湧出いづみて絶せぬはひとかたならぬ霊水たまげなりと。石檻石罅いしがらみをかまへて名蹤なそうの所以を公にせん事、今時その資を喜捨きだして烏石うせき先生衆工しやうしゆに募りて經營けいぎやうれたり。

諸君子其事を善として文藻ぶんそうに属まはれり。寛雅公は転法輪殿てんぽんの御子ごしにて、随自意院親王御猶子じゆいとして上の醍醐報恩院たいごに住持ぢゆぢし給ひ、大僧都法印だいそうなり、先生の御勸申上ごかんられしかば、御作ごさくなされしなり、公卿の和歌繁多わがによつてこれを略す。